

資料 4

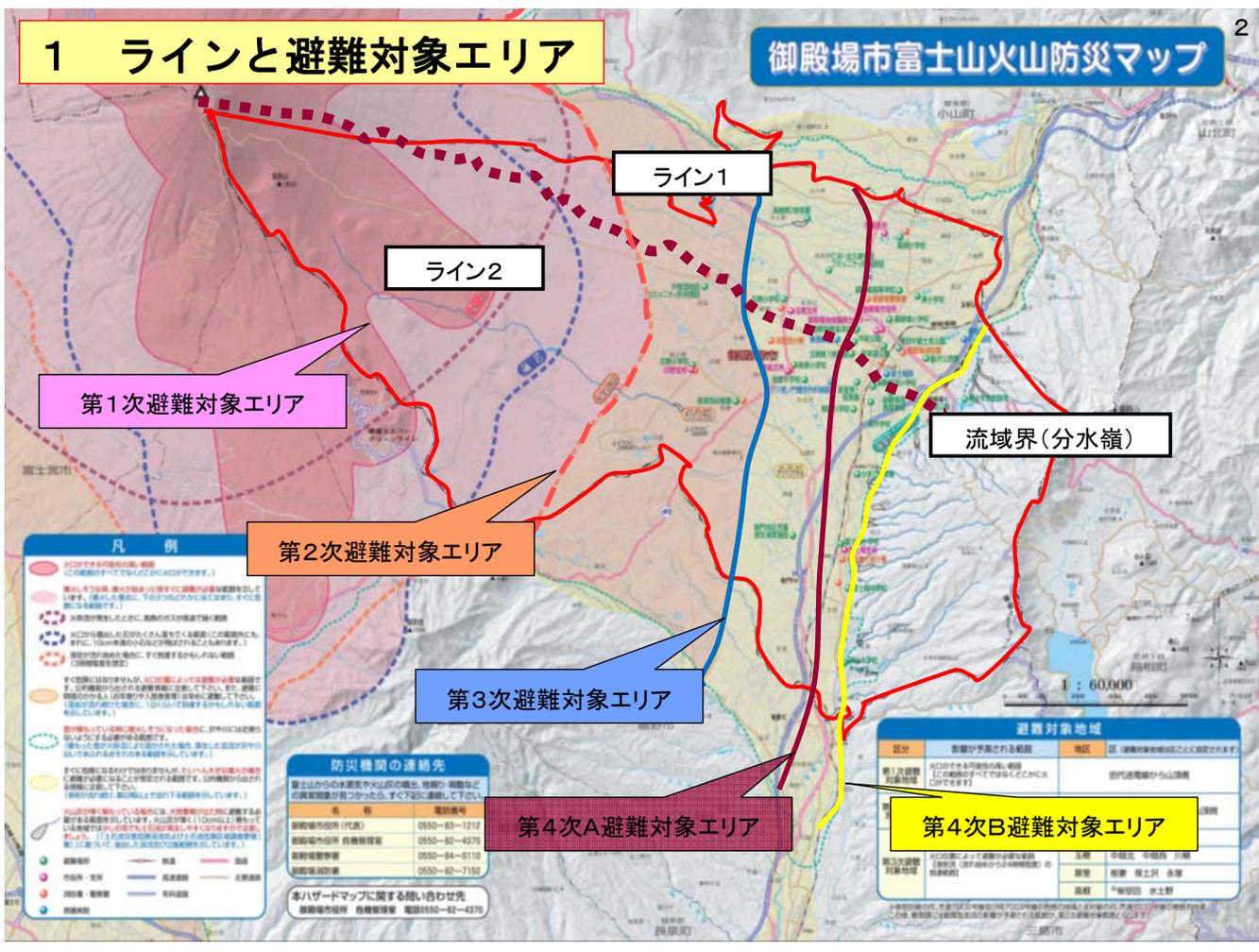
# 御殿場市富士山火山広域避難計画

( 抜 粋 )

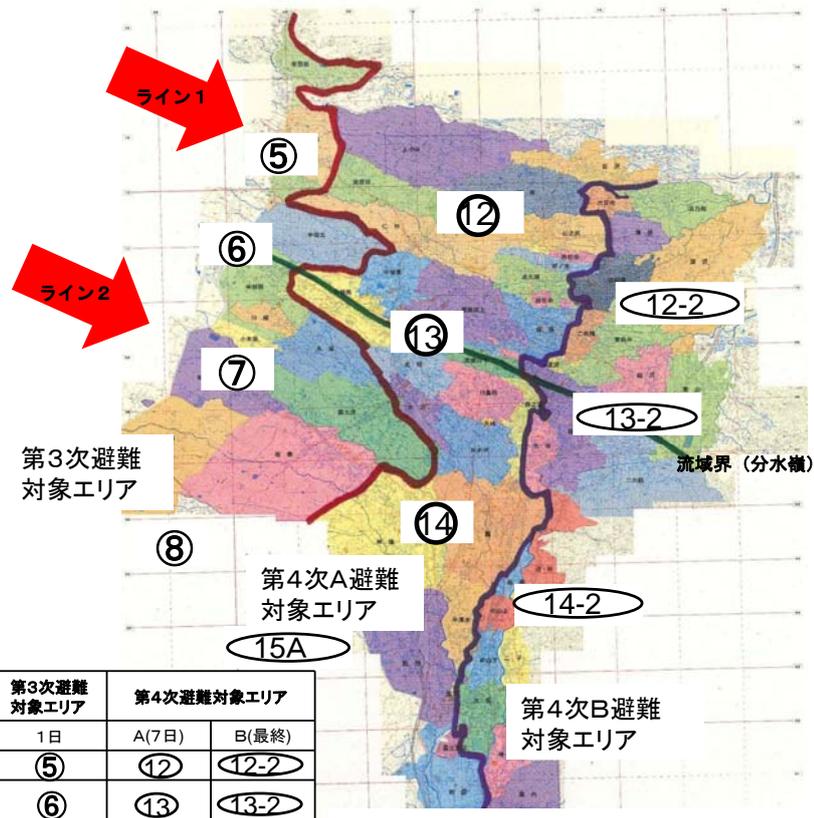
27. 3. 4  
御 殿 場 市

富士山火山避難計画策定のスケジュール

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
主要行事			5/8 自主防連合会総会	6/1 水防訓練		8/27 総合防災訓練 8/30 夜間訓練		10/19 富士山火山三県合同訓練	11/30 モデル地区訓練・研修	12/7 地域防災訓練		2/19 市防災会議	
避難計画の策定	市	富士山火山噴火防災対策啓蒙活動 (自主防災会に対しては7月頃までに周知を図る。)					市の富士山火山避難計画の策定					2/19 市防災会議	
	区	富士山火山噴火防災対策の理解		各区の富士山火山避難計画の策定					各区の富士山火山避難計画の修正				
三県合同訓練の実施		4/21 印野地区への説明	印野地区3区の富士山火山避難計画の策定					避難計画の修正					
			6/10 ①	8/6 ②	9/3 ③	10/8 ④	11/13 ⑤	訓練実施計画の作成・調整 (富士山火山三県合同訓練2014 実行委員会(小木原区、時之瀬区、印野区、印野支所、関係機関等))					



## ラインと避難対象エリア



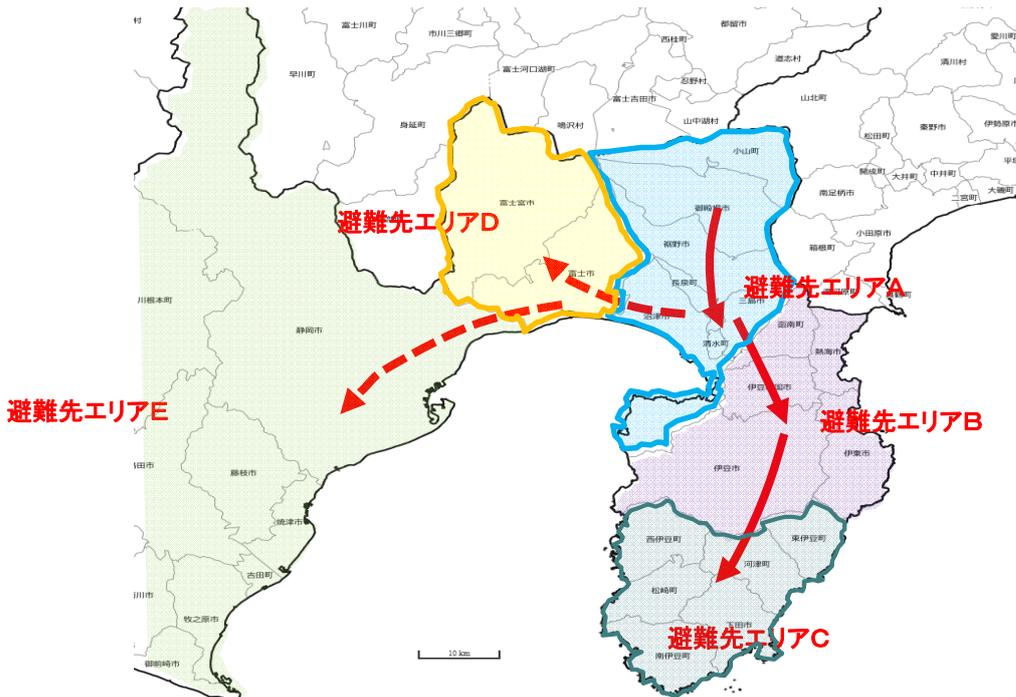
	第3次避難対象エリア	第4次避難対象エリア	
	1日	A(7日)	B(最終)
ライン1	⑤	⑫	⑫-2
ライン1・2混合地域	⑥	⑬	⑬-2
ライン2	⑦	⑭	⑭-2
〃(演習場等)	⑧	⑮A	

※ ライン1避難の場合：ライン1とライン1・2混合地域の区が避難  
 ライン2避難の場合：ライン2とライン1・2混合地域の区が避難

## 2 火山現象別避難一覧表

区 分		溶岩流			融雪型火山泥流	降 灰		小さな噴石	降灰後土石流
		第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア	第4次B避難対象エリア	避難対象エリア	避難対象エリア	屋内退避対象エリア	影響想定範囲	避難対象エリア
噴火前	噴火警戒レベル3 観光客・登山者								
		一般住民	—		避難準備【全方位】	[降灰前に避難を要する場合] 避難準備	—		
	噴火警戒レベル4 避難行動要支援者	避難準備【全方位】			避難【全方位】				
		一般住民	避難準備【全方位】	—					
	噴火警戒レベル5 避難行動要支援者	避難準備【全方位】			避難【全方位】	避難	避難準備		
		避難【全方位】	避難準備【必要ライン】						
噴火開始直後	一般住民	避難【必要ライン】	避難準備【必要ライン】			[降灰可能性マップの範囲] 避難準備	屋内退避準備	屋内退避準備	
	避難行動要支援者		避難【必要ライン】						
噴火開始後	一般住民		避難【必要ライン】	避難【対象ライン】		降灰シミュレーション (気象庁作成)の範囲等を参考に設定) 避難	屋内退避	屋内退避	避難準備 / 避難 (降雨により)
	避難行動要支援者			避難【対象ライン】					

## 3 東部相互応援協定「富士山噴火に対する避難支援計画」の考え方



### 避難先市町一覧

		避難先市町名	最大受入者数	一時集結地 ※		避難経路候補
東部相互応援協定	避難先エリアA	長泉町	4,100	長泉中央グラウンド	長泉町納米里	東名(国道246)→東駿河湾環状線→国道1号
		三島市	8,200	伊豆フルーツパーク	三島市塚原新田	
		沼津市	18,700	愛鷹広域公園	沼津市足高	
		清水町	2,900	清水町体育館	清水町堂庭	
		合計	33,900			
	避難先エリアB	函南町	3,800	状況に応じて発災後に指定する場所	伊豆の国市南江間	新東名(国道246)→東駿河湾環状線→伊豆中央道→熱函道路、国道135号
		伊豆の国市	9,800	旧スポーツワールド駐車場	伊豆市大野	
		伊豆市	13,900	日本サイクルスポーツセンター	熱海市下多賀	
		熱海市	4,100	南熱海マリンホール	伊東市玖須美和田	
		伊東市	13,400	伊東市民体育センター		
	合計	45,000				
	避難先エリアC	東伊豆町	2,000	町立体育センター	東伊豆町稲取	新東名→
		河津町	1,600	河津バガテル公園 駐車場	河津町峰	東駿河湾環状線→
下田市		5,500	道の駅開国下田みなと 道の駅	下田市外ヶ岡	伊豆中央道→	
南伊豆町		2,500	下賀茂温泉湯の花	南伊豆町下賀茂	国道414号・国道136号	
松崎町		1,200	勤労者体育センター	松崎町道部		
西伊豆町		1,400	西伊豆町住民防災センター	西伊豆町宇久須		
合計	14,200					
合計		93,100				
環富士山協定	避難先エリアD	富士市	20,241	富士川河川敷	富士市中之郷	
		富士宮市	14,041	外神スポーツ広場	富士宮市神東町	
広域避難	避難先エリアE	静岡県中部以西地域 山梨県 神奈川県				

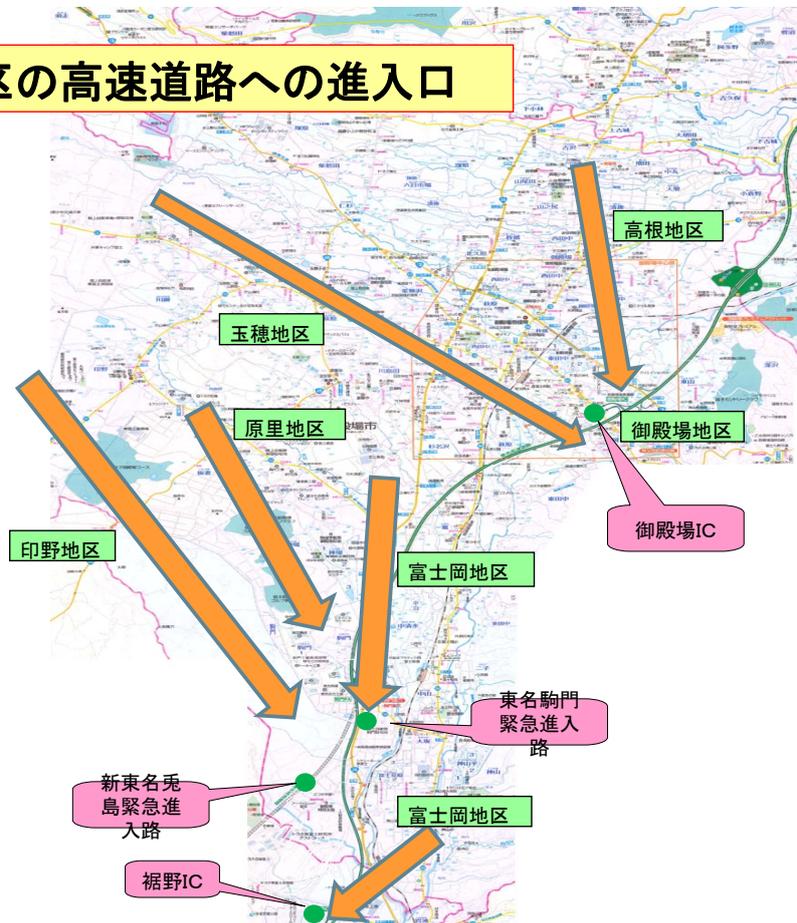
※ 一時集結地： 避難する市町から避難先に移動するにあたり、避難する施設等の案内を受けるために避難先市町に設けられる一時的に集結する場所

### ライン別、避難対象エリアごとにおける避難者数(一案)

(住民数は26. 11. 1現在)

避難対象エリア	ライン1	ライン2	ライン1とライン2が同時
第3次	⑤ (上柴怒田) 水士野 中畑北 ○ 住民数 2,098人 ○ 避難 0人	⑥ 中畑西 ○ 住民数 8,941人 ○ 避難 0人	⑤⑥⑦ 市外 避難先エリアA・Bへ 9,570人
	⑥ 中畑西 ○ 市内 2,098人 ○ 市外 0人	⑦ 川柳 小木原 印野 時之栖 板妻 保土沢 永塚 ○ 市内 2,492人 ○ 市外 避難先エリアAへ 6,449人	
第4次	A ⑫ 上小林 柴怒田(上柴怒田を除く) 仁杉 中畑東 古沢 山之尻 西田中 栢ノ木 北久原 菜葉沢 上塚原 ○ 住民数 20,792人 ○ 避難 763人 ○ 市内 0人 ○ 市外 避難先エリアAへ 20,029人	⑬ 中畑南 萩原 菜葉沢下 ○ 住民数 25,102人 ○ 避難 0人	⑫⑬⑭ 市外 避難先エリアA・Bへ 37,927人
		⑭ 北畑大沢 川島田 杉名 沢 矢崎 神場 竈門 清水 中風穴 富士見原 町屋 ○ 市内 25,102人 ○ 市外 避難先エリアAへ 25,102人	
	B ⑫-2 六日市場 美乃和 清後 御殿場 二枚橋 湯沢 東田中 深沢 鮎沢 ○ 住民数 24,783人 ○ 避難 0人 ○ 市内 0人 ○ 市外 避難先エリアBへ 24,783人	⑬-2 新橋 東山 二の岡 ○ 住民数 26,881人 ○ 避難 0人	⑫-2⑬-2⑭-2 市外 避難先エリアD・Eへ 39,188人
		⑭-2 森永原 萩沼 田山 山上下 中山 子 大坂 山内 尻尾 ○ 市内 26,881人 ○ 市外 避難先エリアBへ 26,881人	
市内避難者数	2,098人	2,492人	
市外避難者数	44,812人	58,432人	86,685人

# 4 各地区の高速道路への進入口



# 市内の避難経路の指定



## 5 区、区民としての行動の基準

避難対象エリアに応ずる避難行動

第3次避難対象エリアの場合

(溶岩流が3時間から24時間以内に到達する可能性が高い範囲)

【上柴怒田、水土野区、中畑北区、中畑西区、川柳区、小木原区、時之栖区、印野区、板妻区、保土沢区、永塚区】

	噴火警戒レベル	避難行動要支援者	一般住民
↓	噴火前	3	
		4	避難準備
		5	避難
	噴火開始直後		避難

具体的な避難要領

噴火警戒レベル	市	第3次避難対象エリア		
		自主防災会	避難行動要支援者	一般住民
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(災害対策本部設置)</li> <li>・噴火警戒レベルの住民への周知</li> <li>・入山規制措置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況により警戒本部の設置</li> <li>・避難行動要支援者の把握</li> <li>・避難行動要支援班の編成</li> </ul>		
4 (準備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部の設置</li> <li>・噴火警戒レベルの住民への周知</li> <li>・避難行動要支援者に対する避難準備指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者及び避難行動要支援班の確認</li> <li>・必要物資等の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主避難の実施</li> <li>・避難準備(服装、携行品、家の戸締り等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主避難の実施</li> </ul>
5 (避難)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・噴火警戒レベルの住民への周知</li> <li>・避難行動要支援者避難のための借り上げバス手配</li> <li>・避難先の手配</li> <li>・自主防災会との連携</li> <li>・関係機関への通報</li> <li>・避難行動要支援者に対する避難指示</li> <li>・職員の派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画の確認・徹底(集合場所、経路、時間)</li> <li>・避難行動要支援者の避難支援</li> <li>・避難行動要支援者の避難先避難所の運営</li> <li>・避難予定一般住民の把握</li> <li>・避難行動要支援者避難先避難所との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主避難の実施</li> <li>・自主防災会の援助を受け避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主避難の実施</li> <li>・避難準備(服装、携行品、家の戸締り等)</li> </ul>
噴火開始直後 (避難)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・噴火発生の速やかな住民への周知</li> <li>・徒歩避難者のための借り上げバス手配</li> <li>・避難先の手配</li> <li>・自主防災会との連携</li> <li>・関係機関への通報</li> <li>・一般住民に対する避難指示</li> <li>・職員の派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者の受付(名簿チェック)</li> <li>・避難実施</li> <li>・避難先避難所の運営</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災会の掌握下に入って避難</li> <li>・自家用車</li> <li>・徒歩(借り上げバス)</li> </ul>

## 6 区、区民としての検討事項

【富士山火山防災として、各区で実施しておくべき事項】

(1) 区として調査し把握しておく必要がある事項

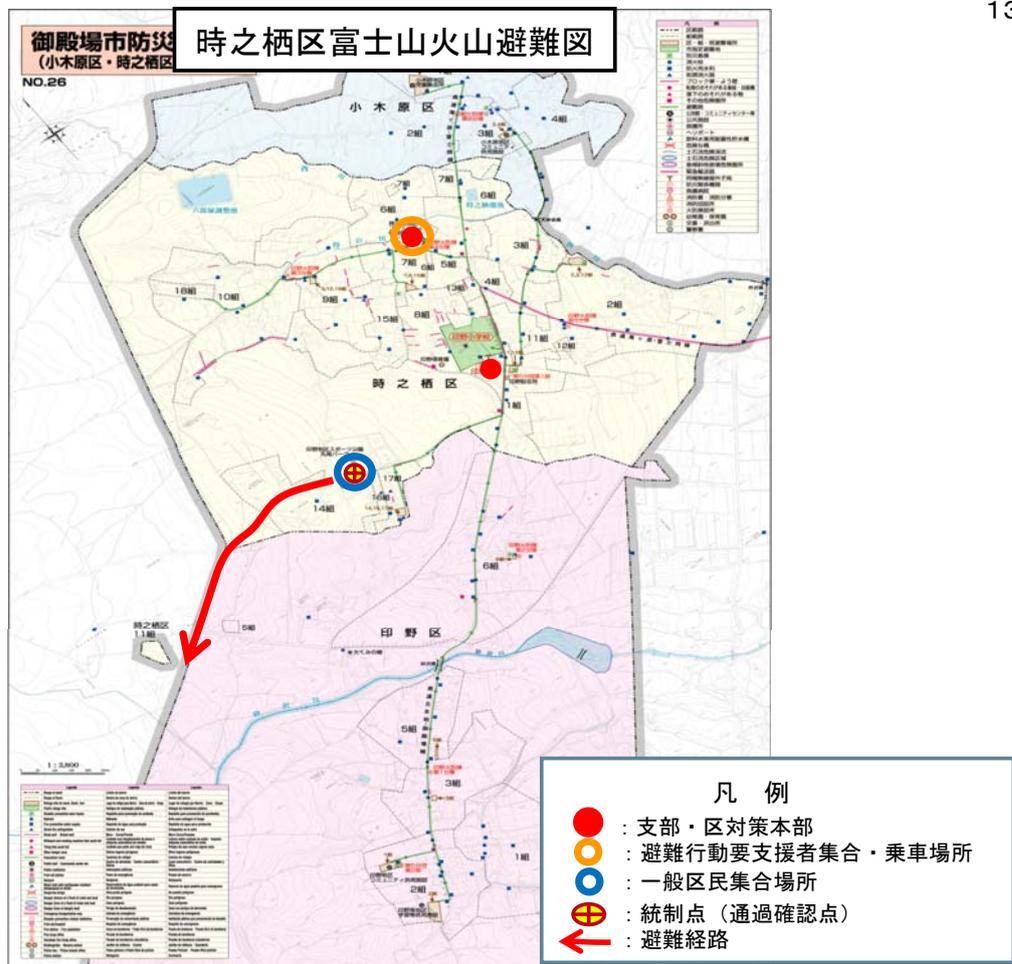
把握事項	内容	具体策
自主避難者数	避難指示が発令される前に、災害の及ばない地域の親戚宅や知人宅に自主的に避難する人数の把握	区及び組ごとの人数
避難行動要支援者数と付添い者数及び選択する移動手段	1 避難行動に支援を要する人(避難準備の段階で避難をする人)と、その人に付き添う家族等の人数の把握 2 避難行動要支援者等の希望する移動手段	1 区及び組ごとの人数 2 市の準備したバス、自衛隊車両など
最終の避難者数と使用車両数	避難指示の発令により避難する人数と使用する自家用車(1世帯1台を基準?)の数	区及び組ごとの人数及び自家用車数
最終保安要員数	区としての避難が完了した後の保安要員の数	消防団員等を指定

(2) 区の避難計画として決めておく必要がある事項

区分	項目	内 容	具 体 策
避難準備間	区の集合場所と参集者	1 避難準備指示を示達する場所 2 避難計画を確認し修正・追加事項を徹底する場所	場所：区コミセン 参集者：各組長等
	避難行動要支援者・付添い者の集合場所	避難行動要支援者等を避難させるためにバス等に乗車させる場所、複数個所	区のコミュニテイセンター
避難行動時	避難する目的地 区外の避難経路	東部相互応援協定で合意された地域・経路となるが、細部については避難準備間に市災害対策本部・支部から示される	
	避難者・避難車両の集合場所・掌握方法	避難指示が発令され、避難行動を開始する際の自家用車両の集合掌握場所、避難者の集合掌握場所（要領）	1 数カ所の駐車場を設定し集合して掌握した後出発 2 駐車場を設定することなく組ごとに連絡通話により掌握し逐次出発
	避難車両のグループング	避難車両数が多く避難統制が難しい場合は、必要に応じ数個にGP分けする	組ごと、班ごとに区分
	区内の避難経路と統制点	区内の避難経路の設定と、移動統制のための統制点を設定	交差点を統制点として設定
	避難誘導要領	道路管理者・警察の道路統制・交通規制と連携した地域住民による誘導要領	消防団・火防隊等による誘導

【地区の集合場所と参集者】

避難準備指示の受領や避難計画の確認等の実施場所：各支所、参集者：各区長



## 富士山噴火時の避難におけるバス及び自家用車の所要見積

(住民数は平成26年11月1日現在)

	ブロック	バス利用避難		自家用車避難
		避難行動要支援者・サポート者	一般区民	
第3次 避難対象 エリア	⑤ ⑥	3台(109人)	4台(191人)	502台(1,415人)
	⑥ ⑦	19台(835人)	15台(732人)	2,329台(5,883人)
	⑤~⑦同時	20台(876人)	16台(765人)	2,511台(6,361人)
第4次A 避難対象 エリア	⑫ ⑬	36台(1,673人)	21台(906人)	4,759台(14,382人)
	⑬ ⑭	41台(1,791人)	22台(893人)	6,703台(18,043人)
	⑫~⑭同時	59台(2,654人)	30台(1,228人)	9,870台(27,313人)
第4次B 避難対象 エリア	⑫-2 ⑬-2	16台(716人)	14台(655人)	6,874台(16,259人)
	⑬-2 ⑭-2	21台(1,013人)	23台(1,574人)	7,118台(18,091人)
	⑫-2~⑭-2同時	34台(1,566人)	33台(1,091人)	10,775台(26,811人)

御殿場市延べ所要見積数							
世帯数	住民数	避難行動要支援者避難者 数(サポート者含む)		一般区民			
				バス		自家用車	
		人	台	人	台	人	台
32,796	86,685	5,096	113	3,567	79	60,485	23,156

(※ バスについては、観光バス型の場合、50人/台、路線バス型の場合70人/台として算出)